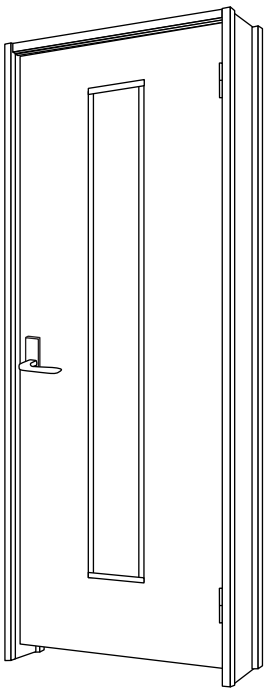
アメニティデザイン企業

DAIKEN

施工後、必ずお施主様にお渡しください。

施工説明書
取扱説明書

ダイケンリビングドアRⅢシリーズ　防音タイプ
ダイケン　防音ドア　カラオケ用



この冊子には、施工上重要な項目が記載されています。
施工の際にはよく読み、手順通りに正しく施工してください。
又、使用後は必ずお施主様にお渡しください。

大建工業株式会社

ON-D11-091124

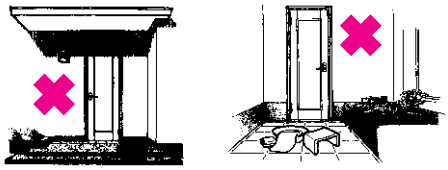
必ずお守りいただきたいこと

⚠ 施工上注意

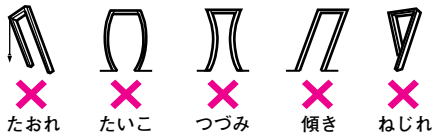
ダイケンリビングドアRⅢシリーズ防音タイプ、防音ドアカラオケ用を長期間安全に使えるように施工するために、またトラブルのない確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

●このドアは一般住宅用の居室用防音ドアです。
玄関等の室外、浴室等の水や湿気の多い部位へのご使用はおやめください。
カラオケボックス等の業務用は防音ドアカラオケ用をご使用ください。

●業務用のカラオケボックスの使用については、地域によって本ドア（木製ドア）が使用できない場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁にご確認ください。

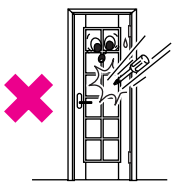


●枠の水平・垂直等建付を確認してから取り付けてください。
防音性能の劣化や開閉不具合の原因となります。
ドアと戸当りのパッキンとの間に隙間が生じる場合は、再度枠の建付を確認して正しく施工してください。

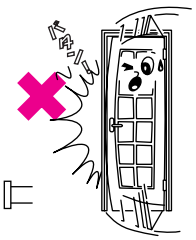


●沓摺、敷居をコンクリートやモルタルに直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、沓摺、敷居と床面の間に必ず防水処理をしてください。

●扉・枠及び金具、ガラスに工具などをぶつけたり、運搬時にひきずらないようにご注意ください。
――傷をつけるおそれがあります。



●風の強い地域や、吹き抜け、高層階でガラスドアを取り付ける場合、ドアストッパーをご使用ください。
――強くドアが閉まると衝撃でガラスが割れるおそれがあります。
――ドアストッパーを取り付ける場合、ドア先端部に取り付けてください。



ご注意

防音タイプドア、防音ドアカラオケ用は全てエアタイトパッキン仕様のため、ドア下端から30mmはドアストッパー金具の取付けができません。
ドアクローザー、開き戸ダンパーは使用できません。

●工事が完成するまでの間、扉は壁にたてかけて保管しないでください。

●照明灯、ストーブ等を近づけすぎないでください。
――熱によるシート変色、ふくれ等の原因となります。

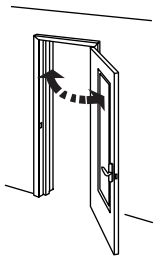
●本開き戸は遮音性能を発現させるため、気密性を高めており、24時間換気の通気経路になりません。
部屋単位で換気を確保してください。

⚠ 使用上注意

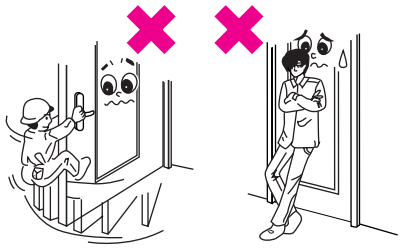
本製品を安全に、また末永くご愛用していただくためにご使用前に必ずよく読み、正しい使用法・使用上の注意事項をよく理解してください。この取扱説明書は、いつでも利用できるように、大切に保管してください。

●扉の開閉は、静かに行ってください。
乱暴に扱うと扉が破損したり脱落する恐れがあります。

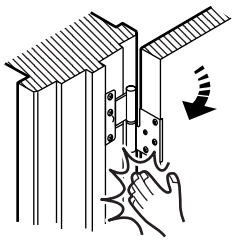
●パッキンがあるので多少抵抗があります。



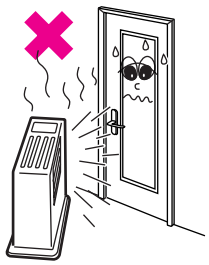
●扉の把手にぶら下ったり、扉にもたれたりしないでください。扉が破損したり、脱落する恐れがあります。



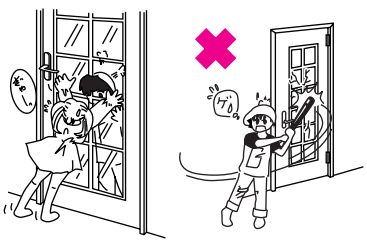
●扉に指をはさまないよう把手を持って正しく操作してください。特に小さなお子様には十分ご注意ください。



●ストーブ等の熱源を近づけないでください。
扉が反ったり、表面がゆがんだりすることがあります。

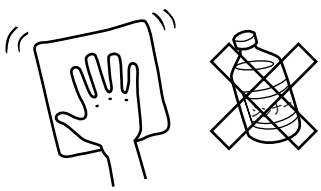


●ガラスに強い衝撃を与えたり物をぶつけたりしないでください。ガラスが割れるおそれがあります。
特に小さなお子様には十分ご注意ください。

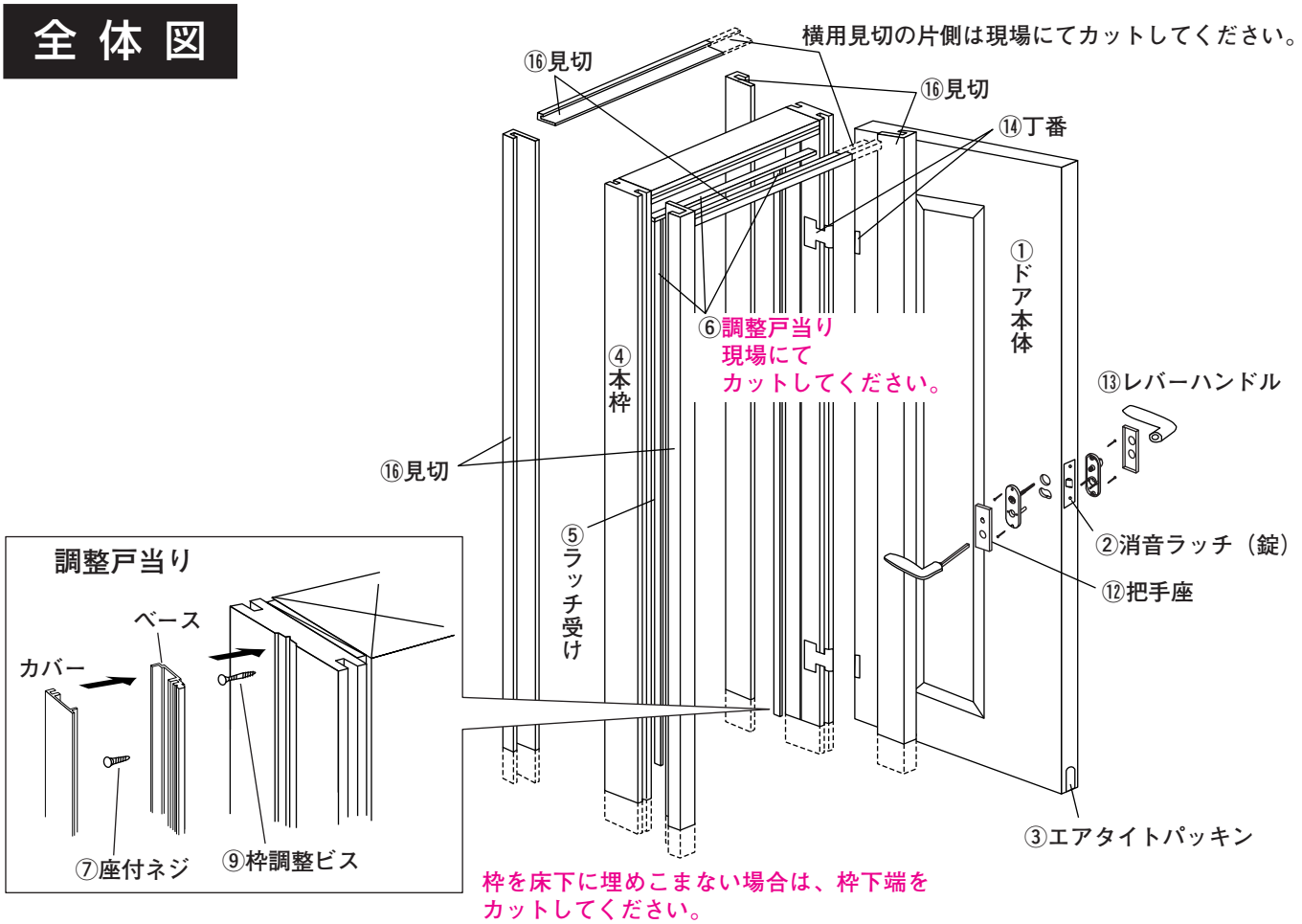


お手入れの方法

●扉や枠の清掃は、乾拭き又は中性洗剤を薄めて、硬く絞って拭いてください。
シンナー・ベンジン等を使用すると、表面の艶が変わったり、変色する場合がありますので、避けてください。

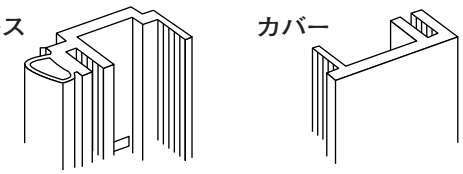


全体図



部材・部品表

施工前に必ず部品を確認してください。

	No.	部　品　名　称	数量	備　　考
扉セット	①	扉本体	1	ガラス取付済（20、H5のみ）
	②	消音ラッチ（錠）	1	扉本体に取付済
	③	エアタイトパッキン	1	扉本体に取付済
枠セット	④	枠本体	1	3方枠（縦枠 2　上枠 1）
	⑤	ラッチ受け	1	枠本体に取付済
	⑥	調整戸当り （ベース・カバー）	縦用 2対 横用 1対	ベース　カバー 
	⑦	座付ネジ（調整戸当り固定用）	35	予備含む、ポリ袋入り
	⑧	枠組立ビス	4	ϕ4.2×50
	⑨	枠調整ビス	10	ϕ4.2×55
	⑩	枠組立用接着剤	1	枠組立用です。戸当りには使用しません。
	⑪	施工説明書・取扱説明書	1	必ずお施主様にお渡しください。
把手セット	⑫	把手座	1	
	⑬	レバーハンドル	1	
丁番セット	⑭	丁番	2（上用1下用1）	
	⑮	丁番取付ビス	16	ϕ3.8×24
見切セット	⑯	見切	縦用 4　横用 2	壁厚に合わせてサイズをお選びください。

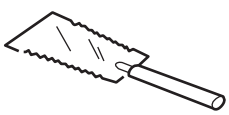
必要梱包　扉＋（防音用）枠＋把手（レバーハンドル）セット＋丁番セット＋見切セット　（計5梱包）

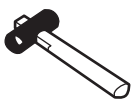
施工の流れ

詳細は4〜8頁をご覧ください。

手　順	ポ　イ　ン　ト
1.確認	・開口部の寸法を確認する。 ・部品、部材、同梱品を確認する。（本紙の部材・部品表参照）
2.準備	・納まり寸法に合わせ、枠下端をカットする。 ・接着剤を併用し、枠を組み立てる。
3.枠取付け	・枠を開口部へはめ込み、下げ振り・水準器を使い、水平・垂直を確認する。 ・同梱のビスにて枠を躯体へ取付ける。 ・枠の取付け精度（建付け）を確認する。
4.扉取付け	
5.把手座及び、レバーハンドルの取付け	・レバーハンドルは、専用治具又はマイナスドライバーをレバー根元に差し込みはずしてください。
6.隙間のチェック	・枠と扉の隙間を確認する。（設定寸法全周4mm）
7.枠の固定	・枠を隠しクギ等で躯体に固定する。
8.戸当り取付け	・納まり寸法に合わせ戸当りをカットする。 ・戸当りのベースを、枠の溝に付属の座付きネジで仮止めする。（縦がち納め） ・ドアと戸当りベースのパッキンの間隔を調整する。 パッキンが5mm程度につぶれるよう調整し固定する。
9.扉開閉チェック	・扉を開閉し、パッキンの密閉や開閉力をチェックする。
10.調整	・必要があれば丁番で扉の左右方向、上下方向、前後方向を調整する。 ・必要があればラッチ受けで前後方向を調整する。 ・必要があれば戸当りで前後方向を調整する。
11.戸当りカバー取付け	・戸当りカバーをベースにはめ込む。
12.ボトムタイトの調整	・扉が閉まった時に、エアタイトパッキンが床面に軽く接触するよう調整する。
13.見切の取付け	・納まり寸法に合わせ見切をカットし、木工ボンドを使用し仮釘で固定する。
14.扉、枠、金具の養生	・ダンボール、ミラーマットなどで扉他を養生する。

使 用 工 具


のこぎり


金づち

電気ドリル

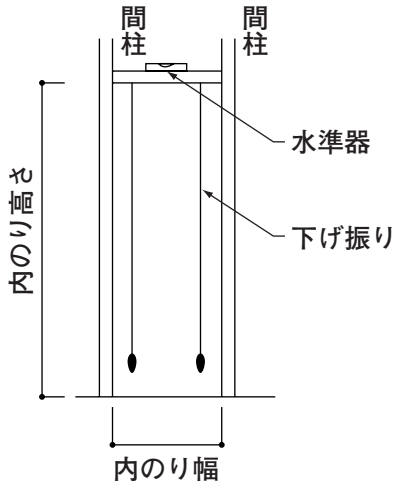
ドライバー

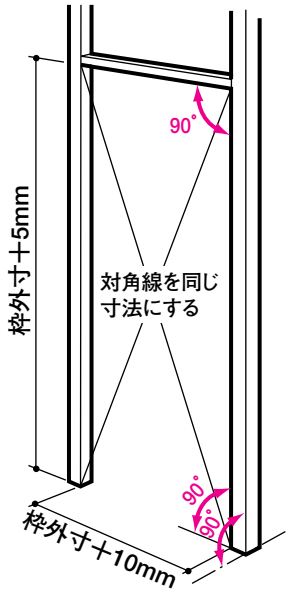
下げ振り

水準器
など

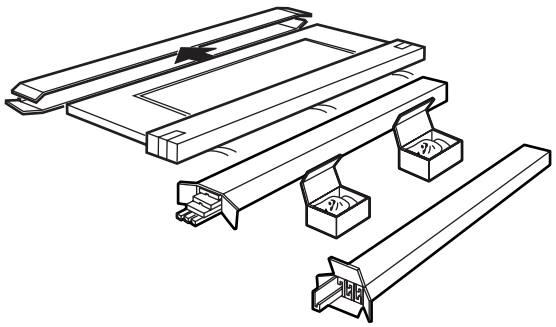
準 備

●開口部の幅・高さの寸法を十分に確保してください。
●柱の垂直、床・まぐさの水平を下げ振り・水準器でよく確認してください。





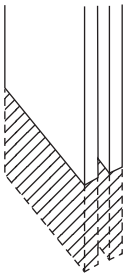
梱包を開けて部品を確認してください。



施工前に

枠を床下に埋めこまない場合は枠下端をカットしてください。

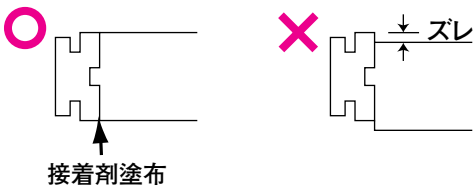
カット寸法　縦枠を2031mm（約14mmカット）にしてください。



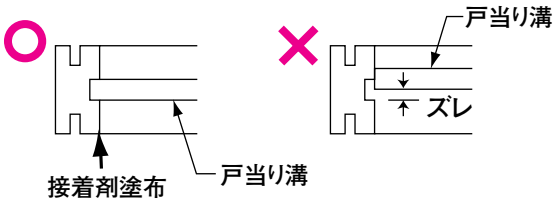
枠を組み立ててください。

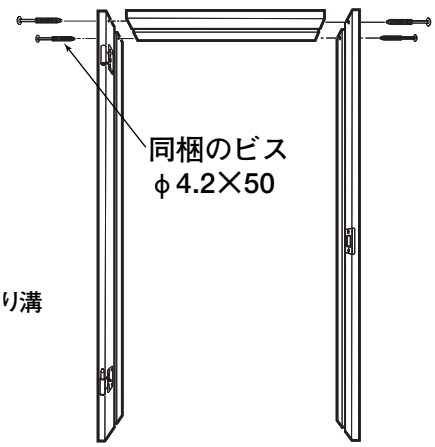
※同梱のビス及び接着剤を使用してください。

①縦枠と上枠にずれがないことを確認してください。



②戸当り溝が縦枠と上枠でずれていないことを確認してください。





⚠ 注意　縦枠と上枠にずれ又は隙間があると音洩れの原因となります。十分注意の上、組み立ててください。

施工手順

1

①枠を開口部にはめこんで丁番側の枠の上側丁番ベース中央部の戸当り溝を枠調整ビスで仮固定してください。

⇩

②下げ振りを使って垂直をだしてから、丁番側の枠の下側を枠調整ビスで仮固定してください。

⇩

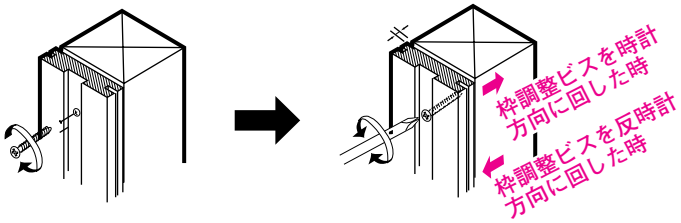
③水準器で上枠の水平を見ながらラッチ側の枠の上部を枠調整ビスで仮固定してください。

⇩

④下げ振りを使って垂直をだしてから、ラッチ側の枠の下側を枠調整ビスで仮固定してください。

⇩

⑤枠の左右調整は次の様に行ってください。



(1) まず枠調整ビスで枠を固定します。

(2) 枠調整ビスを回すことで、柱と枠の間の隙間を調整することが出来ます。

⚠ 注意 枠調整ビスでの調整には必ず手動ドライバーをご使用ください。電動ドライバーを使用すると、ビス頭がつぶれ調整ができなくなります。

⚠ 注意 調整丁番は施工後の経時変化のための微調整ですので枠の調整はしっかり行ってください。

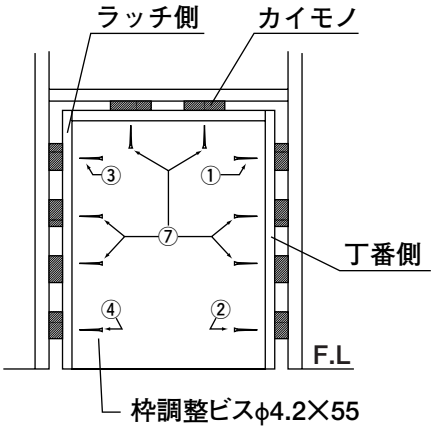
⇩

⑥調整後、枠調整ビスの上下に木工ボンド（現場手配）を塗ったカイモノ（幅＝柱幅程度 × 高さ＝100ミリ以上）を入れてください。

⚠ 注意 カイモノを入れないと、枠がぐらつき、丁番が破損したり、壁と枠の間にスキマが発生する恐れがあります。

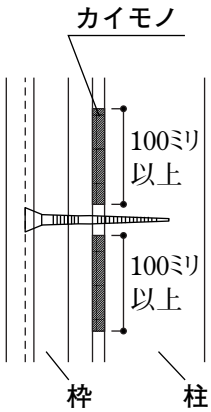
⇩

⑦枠の前後、左右のたわみがない様に調整後カイモノをして、残りの枠調整ビスで本固定してください。



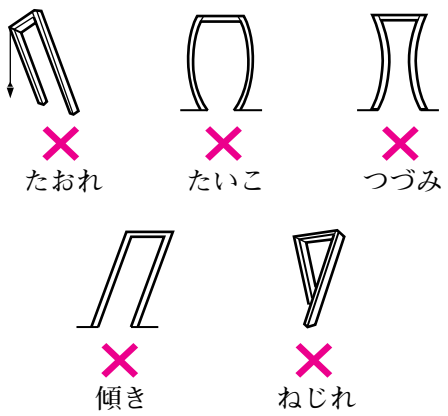
①②③④部分のカイモノは下図のようにビスの上下に入れてください。

⚠ 必ずカイモノに木工ボンド（現場手配）を塗ってください。



⚠ 注意

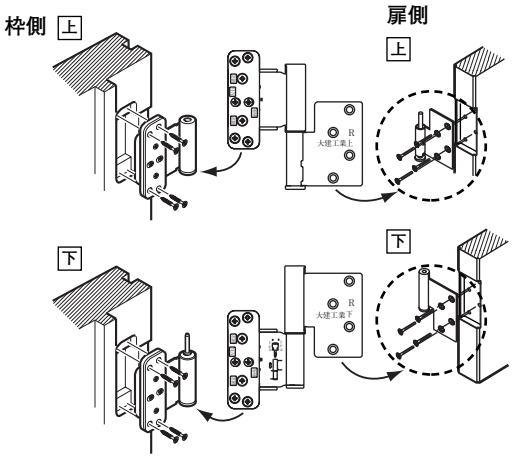
枠の水平・垂直を必ず確認してから取り付けてください。扉が閉まらない原因となります。



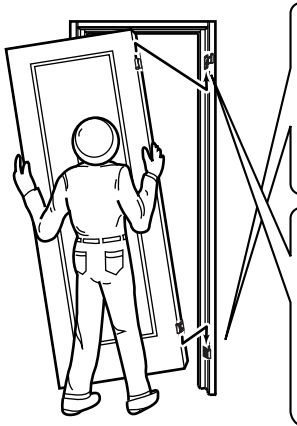
2 扉の吊り込み

①扉に扉側丁番を、枠に枠側丁番を同梱のビス（φ3.8×24）で取り付けてください。

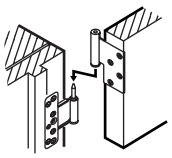
②扉を枠に吊り込んでください。
扉は左右兼用になっていますので右吊・左吊に注意して扉側丁番を取り付けてください。



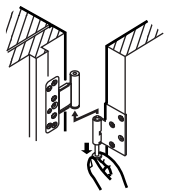
⚠ 注意 丁番の上用・下用を間違えないようご注意ください。



①枠側丁番（下）の軸に扉側丁番（下）をのせてください。

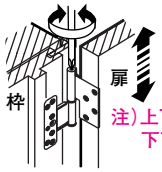


②扉側丁番（上）のつまみを下げて枠側丁番につけてください。



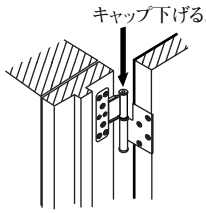
③下丁番の軸が見えないように、下丁番の上下調整を行ってください。

この向きに回すと扉が上に上がります。　この向きに回すと扉が下に下がります。



注）上下調整は下丁番のみです。

④枠側丁番上のキャップを下げてください。



3

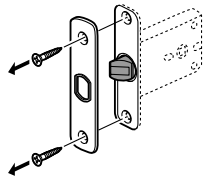
把手座とレバーハンドルを取り付けてください。

取付方法は把手セットに印刷の取付説明書をご覧ください。

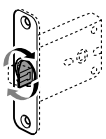
4 左吊元扉の場合は右の通りラッチの先端の向きを反転させてください。

（※扉は出荷時は右吊元になっています。）

⚠ ラッチカバーには上下があります。

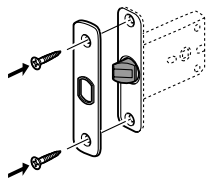


①ビスをはずしてラッチカバーをはずします。



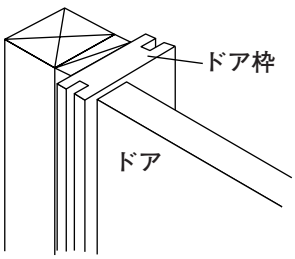
⚠ ご注意
ラッチ本体は反転させないでください。

②ラッチ先端部だけを反転させます。

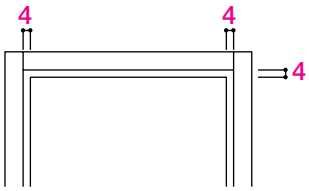


③ラッチカバーをビスで取付けます。

5 ドアと枠のすき間が正しい寸法となっているかを確認してください。

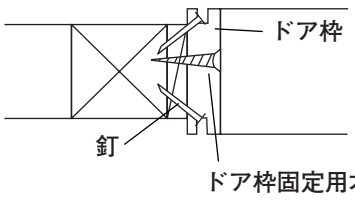


ドアと枠のすき間

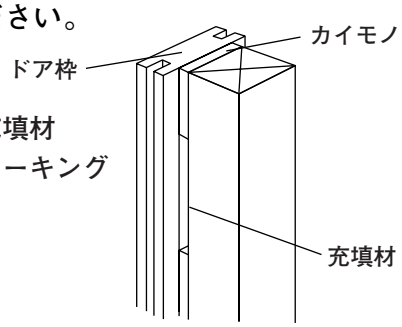


※床上と扉下のすき間は4mm

6 ドア枠固定用木ネジ（同梱品）でドア枠を開口部に止め付け、更に見切りの溝より釘または木ネジ（現場手配）でしっかりと固定してください。（必ずリード穴を開けてください）



7 ドア枠と開口部のすき間があれば音が漏れ、防音ドアの性能が発揮できません。すき間を次の材料で埋めてください。



・ダイケン遮音隙間充填材
・ダイケン気密遮音コーキング
・石膏
・ダイケン遮音シート
など

8 調整戸当りの取付け

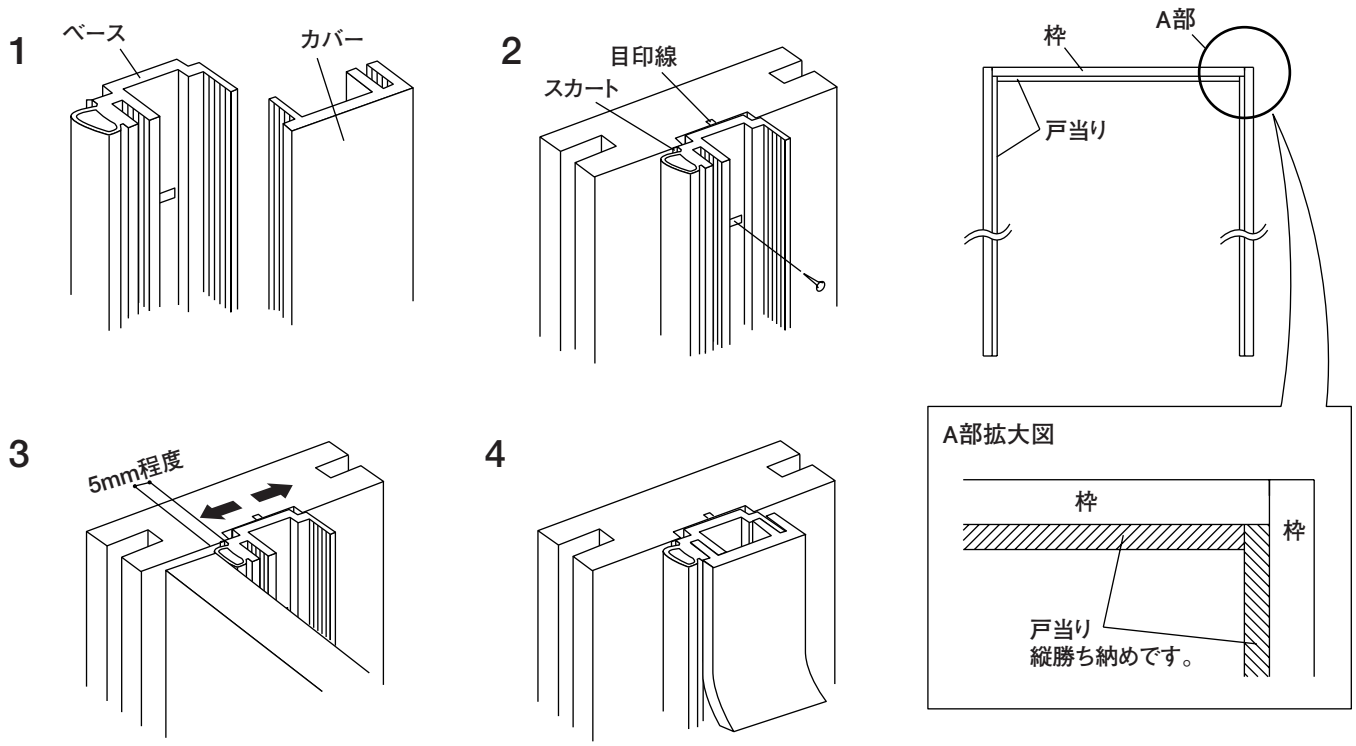
⚠ 注意 戸当りの取付けは電動ドライバー又は手動ドライバーで行なってください。インパクトドライバーはトルクが強くビス頭を潰す恐れがありますので、使用しないでください。

1．戸当りをカットしてください。縦戸当り：2006mm，上戸当り755幅：676mm，780幅：701mmが目安ですが、実際に寸法を測定してカットしてください。短くなりすぎると音洩れの原因となります。
カバーは 1 mm程度短めにカットし、強く突きつけないようにしてください。戸当りは縦勝ち納めです。

2．戸当りのベースをドア枠の溝の目印線にあわせて、上から順にスカート部をかみ込まないように、付属の座付きネジで仮留めしてください。ネジを締め込んでしまうと調整が出来ませんのでご注意ください。

3．ドアを閉めた時に、パッキンが5mm程度になる様に、ベースを動かして調整し、座付きネジを本固定してください。ベースは前後に約2.5mm動かせます。

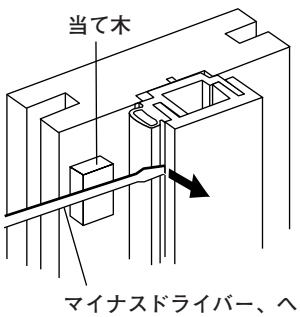
4．カバーをドア枠上端からしっかりとはめ込んでください。
※調整丁番、調整ラッチ受け等の調整が必要な時は、調整後カバーをはめ込んでください。



調整戸当りの調整方法

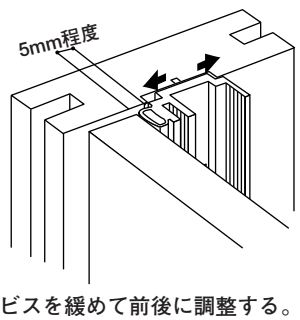
調整戸当りの外し方

・戸当りカバーは、パッキン横の溝部分にマイナスドライバー、ヘラ等を差し込んで図の方向に取外してください。
（当て木を使ってドア枠などにキズが付かない様慎重に取外してください。）



調整戸当りの調整方法

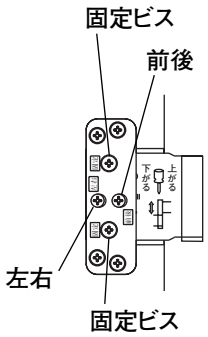
・戸当りの調整はビスを緩めて、前後に動かし、ドアを閉めた時にパッキンが5mm程度につぶれる様に調整し固定してください。



9 扉を開閉して、扉があたる場合は、調整丁番にて扉の傾きを調整してください。

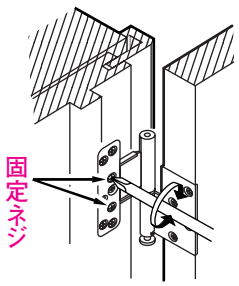
手順

固定ビス ゆるめる
↓
調整ビス で調整
↓
開閉して隙間等確認
↓
固定ビス **しめる**



⚠ 注意

固定ネジは確実に締めつけてください。締めつけがゆるいと使用中に固定ネジがゆるみ丁番が破損したり扉が脱落する恐れがあります。

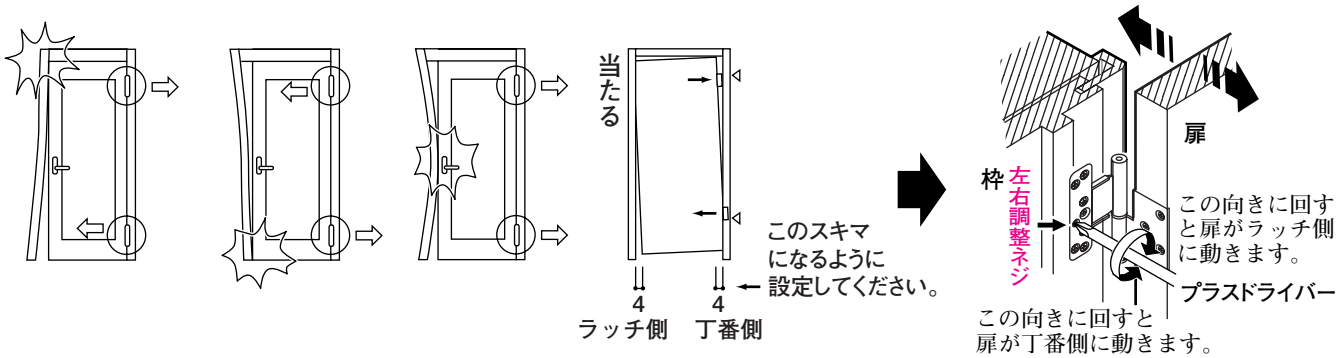


⚠ 注意

丁番の調整には必ず手動ドライバーをご使用ください。

左右方向の調整 （調整可能範囲 5 mm）

扉を開閉して、枠とあたる部分が下図の位置の場合、
○印のついた丁番を矢印：⇨の方向に調整してください。



＊扉が自動的に開閉してしまう時は、扉が枠にあたらない範囲で以下の調整を行ってください。
・扉が閉まってくる場合…上丁番にて扉を丁番側に寄せてください。
・扉が開いてくる場合……上丁番にて扉をラッチ側に寄せてください。

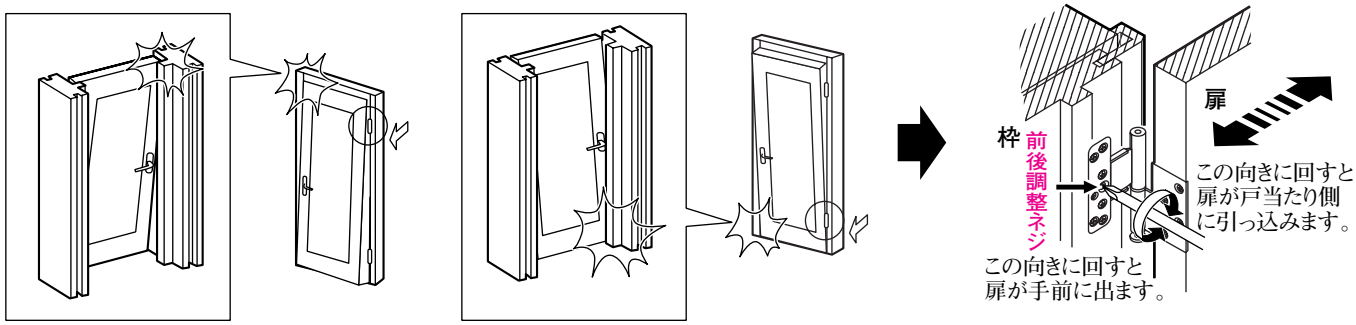
上下方向の調整 （調整可能範囲 6 mm）

扉を開閉して、枠とあたる部分が下図の位置の場合、○印のついた丁番を矢印：⇨の方向に調整してください。

⚠調整後、上丁番枠側キャップを軸がかくれる位置に移動してください。

前後方向の調整 （調整可能範囲 3 mm）

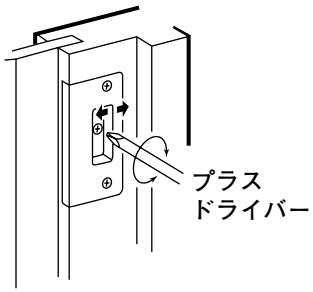
扉を開閉して、枠とあたる部分が下図の位置の場合、○印のついた丁番を矢印：⇨ の方向に調整してください。



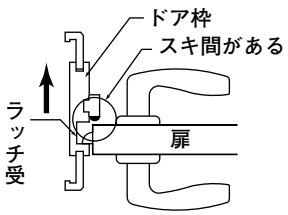
10 扉がガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーで調整ラッチ受座を調整してください。

調整ラッチ受座の操作方法

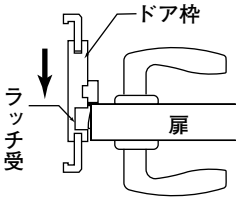
（調整可能範囲 5 mm）



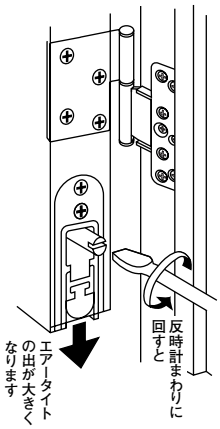
ドアがガタつく場合



ラッチがかからない場合



11 エアタイトパッキンを調整してください。



エアタイトパッキンは扉が閉まった時にパッキンが床面に軽く接触するように調整してください。

⚠ 注意 床面とパッキンの接触が強いと開閉時のコスレで摩耗し、床面やパッキンを傷める恐れがあります。

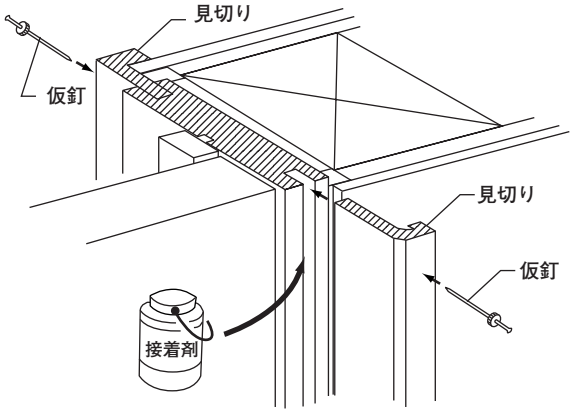
ドアを閉めると、エアタイトパッキンのロッドが枠に当りエアタイトゴムがドア下部をシールします。シール圧調整はロッドを引き出すと強くなります。床とエアタイトゴムの間に紙を敷いて引き抜き、抵抗を感じる程度が最適です。

※出荷時はエアタイトパッキンが引っ込んだ状態になっています。必ず調整を行なってください。

12 壁の施工が終了してから、見切りを取付けてください。

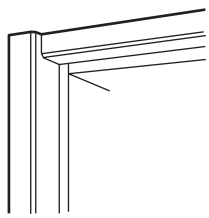
見切り用溝に木工ボンド（現場手配）を塗布し、見切りを仮釘で固定してください。その際、ラッチ受座位置の部分には木工ボンドを塗布しないでください。

※見切は現場にて現物合せしてカットしてください。



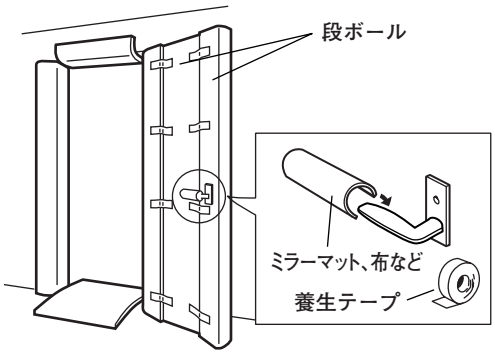
シンプルタイプ

見切りは縦勝ち納めです。

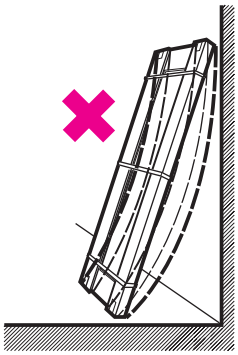


13 工事が完成するまで扉・枠を段ボールなどで養生してください。把手金具・丁番は布・ミラーマットなどで養生してください。

粘着テープを直接ドア表面に貼らないでください。
表面材を傷める恐れがあります。
H5、H6（鏡面シート仕上げ）は傷保護シートが扉表面に貼ってあります。お引渡しの際にはがしてください。



※扉を壁にたてかけて保管しないでください。



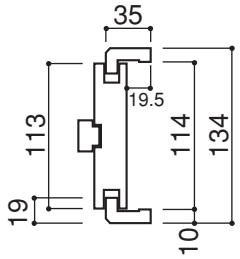
製品寸法図　（単位はｍｍ）

リビングドアＲⅢシリーズ防音タイプ、防音ドアカラオケ用

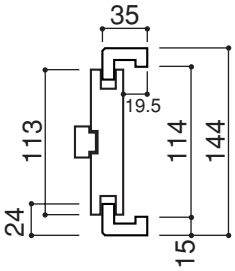
下図は右吊元

見切A（シンプル）壁厚114mm

横　用

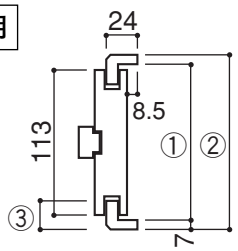


縦　用

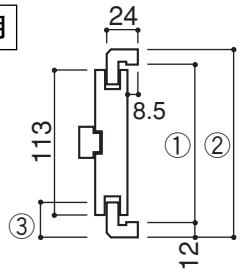


見切B～E（シンプル）壁厚114mm～185mm

横　用



縦　用

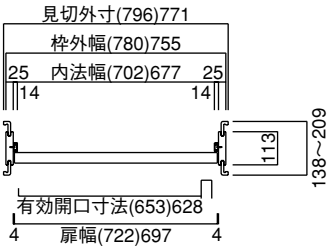


見　切		B	C	D	E
①壁厚		114～131	131～149	149～167	167～185
②枠外寸	横用	128～145	145～163	163～181	181～199
	縦用	138～155	155～173	173～191	191～209
③見切サイズ	横用	22	31	40	49
	縦用	27	36	45	54

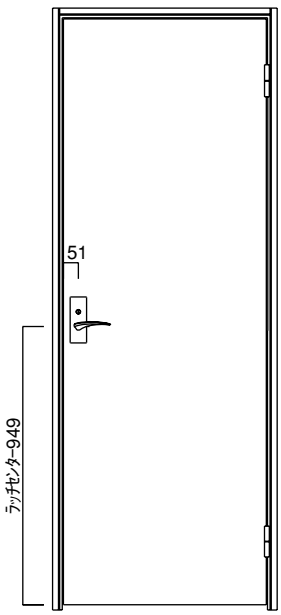
リビングドアＲⅢシリーズ防音タイプ、防音ドアカラオケ用寸法図

リビングドアＲⅢシリーズ防音タイプ 780幅・755幅

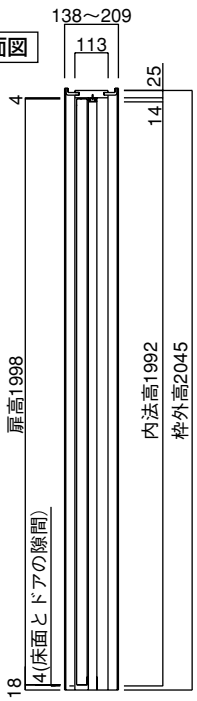
横断面図



正面図



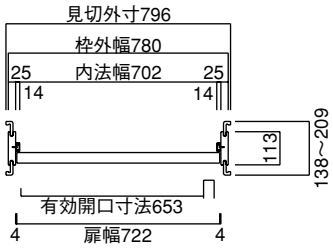
側面図



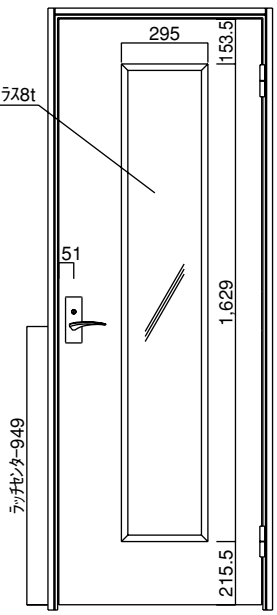
（　）内は780幅タイプ

防音ドアカラオケ用 780幅

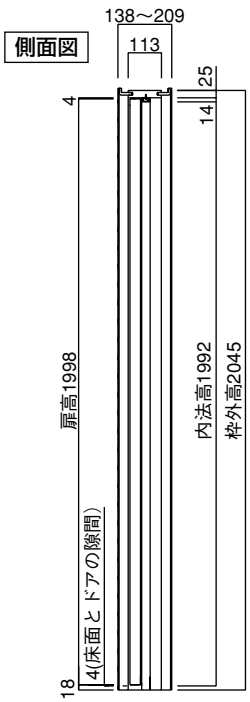
横断面図



正面図



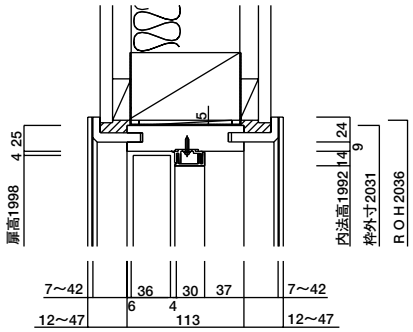
側面図

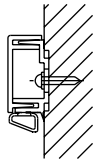


施 工 例 （単位はmm）

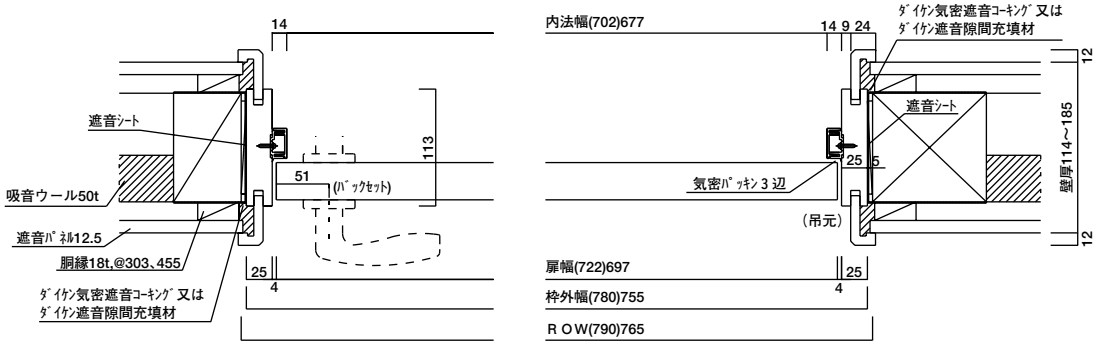
リビングドアＲⅢシリーズ防音タイプ、
防音ドアカラオケ用

下図は右吊元の施工例
（見切りは別売です。壁厚に合わせて
選択してください。）
（　）内は780幅タイプ

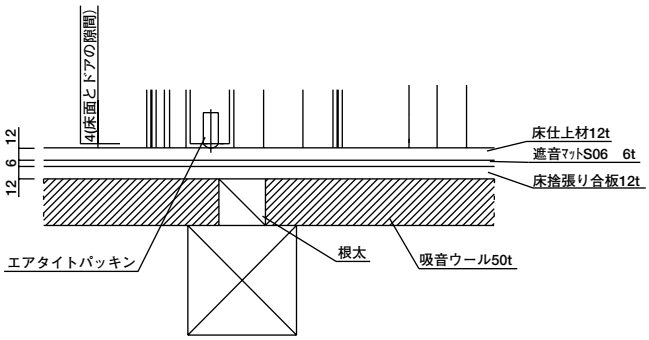




気密ﾊﾟｯｷﾝ付調整戸当り
（3辺取り付け）



755幅ﾀｲﾌﾟ 開口巾（ＲＯＷ）＝ 765
開口高（ＲＯＨ）＝2036
780幅ﾀｲﾌﾟ 開口巾（ＲＯＷ）＝ 790
開口高（ＲＯＨ）＝2036

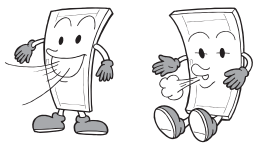


床面とドアの隙間設定は４ｍｍです。

木質材料の性質について

木質ドアの「反り」について

木材を原料とする木質材料（合板、パーティクルボード、MDFなど）を加工して作られた内装ドアは、空気中の水分を吸収したり放出したりすることにより、伸縮する特性を有しています。この空気中の水分の吸収・放出は内装ドア周辺の温度、湿度等の環境条件の変化に応じて発生するものであり、自然現象といえます。特に、内装ドアの室内面側と室外面側の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。



「反り」の発生を出来るだけ抑える方法について

ご使用の環境や設置場所によって「反り」が発生する場合があります。「反り」の発生をできるだけ抑える方法として、次のことにご注意ください。

①エアコン、暖房器具等をお使いになる場合は、内装ドアに直接熱風、熱気が当たらないようにしてください。

②夏場の冷房、梅雨時の除湿、冬場の暖房等により、室内と室外の環境条件の差を極端に大きくしないでください。

③内装ドアに直接日光が当たる場合は、窓辺にカーテン、すだれ等を設けて日光を遮ってください。

発生した「反り」は室内側と室外側の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。

商品の保証について

商品保証とは、保証期間、保証内容の範囲において故障が発生した場合に、無料で修理をお約束するものです。詳しくは、下記内容をご参照ください。

■対象商品

リビングドア

■保証期間

引渡し後2年とさせていただきます。弊社商品の引渡完了後に生じた、弊社の責任に起因する製品の不具合を、無料で修理する期間としています。保証期間を経過した製品においても、修理可能なものは、有償にて修理を承ります。

■保証期間内でも以下の場合は有料となります。

①建物の設計・施工に起因する場合
②自然現象・周辺環境等の不可抗力に起因する場合
③建物自体の変形、入居後における増改築や改修等に起因する場合
④入居者又は第三者の不適切な使用又は維持管理等に起因する場合
⑤経時変化による通常一般的な当該保証対象製品の色褪色、汚れ、劣化、磨耗など
⑥製造時に実用化されていた技術では予測する事が不可能な事象に起因する場合
⑦その他当該不具合品の発生が弊社の責によらない場合

大建工業株式会社
〒530-8210 大阪市北区堂島1丁目6番20号 堂島アバンザ22Ｆ
TEL：(06) 6452-6000

DAIKENのホームページアドレス http://www.daiken.jp/

お問い合わせは
音響製品部　防音・音響企画開発課　防音相談担当
TEL　086（262）0198